

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【教育目標】

平成24年12月の痛ましい事案を風化させることなく受け止め、新たな学校づくりを推進する。

豊かな教養と幅広い人間性（他者を慈しむ心）の基盤の上に、学習とスポーツ・文化活動の両立（文武両道）をめざして、何事にも前向きに取り組む人材を育成する。

【育成をめざす資質・能力】

1. 学校行事や部活動を通して、学年の枠を超えて自主・自律の態度を育成するとともに、協働、集中、規律、責任などを重んじる態度とコミュニケーション能力を培う。
2. 基礎学力を定着させるとともに、生徒の学ぶ意欲を高める。さらに、思考力・判断力・表現力を培い、主体的な学習能力の向上を図る。
3. 礼儀正しく、思いやりと品位のある態度を養い、挨拶の励行、マナーの遵守、校舎内の清潔の保持に自ら進んで取り組む態度を育てる。
4. 自他を尊重する心を育み、人権を尊重する態度を養う。

2 中期的目標

【桜宮高等学校改革プラン（骨子）】

- ・学校体制の抜本的刷新を行い、体罰・暴力行為等を一扫し、学校の体質改善をすすめる。
- ・信頼と誇りを胸に、生徒・保護者、市民とともに先進的なスポーツモデル校をめざし、学校づくりをめざす。
- ・豊かな教養と幅広い人間性（他者を慈しむ心）を最重視し、その基盤の上にスポーツマインドを備えた人材を育成する。

1 確かな学力の育成と進路実現

（1）基礎学力の充実を図るとともに応用力と創造性を養い、自ら進んで問題解決・自己実現していく態度を育成する。

ア 家庭での学習習慣の定着を図り、早期から進路実現に向けた自主学習習慣を確立させる。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「21_授業以外で一定時間、毎日勉強している」の肯定的回答率（全学年）を令和7年度には50%以上にする。

（R2 全学年：32.3%、1年：28.4%、2年：24.3%、3年：44.5%）（R3 全学年：38.1%、1年：30.5%、2年：33.0%、3年：51.1%）

（R4 全学年：33.8%、1年：25.9%、2年：31.3%、3年：44.1%）

イ 進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、漢字検定や英語検定など外部検定の受検意識の向上を図る。

※ 外部検定の令和7年度受検者数を漢字検定70名、英語検定150名をめざす。

漢字検定受検者数（R2：29名（1回）、R3：103名（2回）、R4：60名（2回））

英語検定受検者数（R2：79名（3回）、R3：61名（3回）、R4：130名（3回））

ウ 生徒の健全な教養の育成のために、書籍に親しむ態度の養成に取り組む。

※ 令和7年度には、入館者数1000名、貸出冊数500冊をめざす。

（R2 入館者数785名、貸出冊数200冊、R3 入館者数1114名、貸出冊数474冊、R4 入館者数551名、貸出冊数222冊）

（2）生徒が、自発的に自らの能力・適性・興味・関心を生かした進路選択を行い、進路実現に向けた積極的な取り組みを主体的に行える力を育成する。

ア 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、実力養成に努めるとともに、進路意識の向上に努め、生徒の自発的な情報収集能力・活用力の向上を図る。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率（全学年）を令和7年度には88%以上にする。

（R2 全学年：77.7%、1年：67.0%、2年：79.1%、3年：87.2%）（R3 全学年：79.9%、1年：70.0%、2年：82.8%、3年：87.1%）

（R4 全学年：85.4%、1年：81.0%、2年：83.8%、3年：90.6%）

イ 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、各学年に応じた心構えや進路情報を提供する。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「11_進路に関しての先生からのアドバイスは適切である」の肯定的回答率（全学年）を令和7年度には88%以上にする。

（R2 全学年：80.5%、1年：69.1%、2年：84.4%、3年：88.3%）（R3 全学年：81.4%、1年：74.4%、2年：83.2%、3年：86.7%）

（R4 全学年：84.4%、1年：84.9%、2年：79.2%、3年：88.7%）

ウ 保護者への進路情報を適宜提供するとともに、生徒・保護者が奨学金制度を理解し、もれなく申請できるようにする。

※ 「（保護者用）学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率（全学年）を令和7年度には86%以上にする。

（R2 全学年：65.4%、1年：55.7%、2年：60.4%、3年：79.2%）（R3 全学年：69.6%、1年：58.8%、2年：65.1%、3年：84.8%）

（R4 全学年：84.0%、1年：79.5%、2年：84.2%、3年：88.1%）

エ 人間スポーツ科学科の生徒を中心に、将来アスリートを多方面からサポートする人材の育成に向け、ジュニアトレーナー制度の充実を図るとともに、外部団体の公認資格の受験推進を図る。

※ 資格試験の正解率70%以上を基準とし、令和7年度の合格者70名以上を目標とする。合格者（R2：70名、R3：66名、R4：64名）

オ ジュニアトレーナー合格者のさらなるステップアップとして、スチューデントトレーナー等の正式資格の受験推進を図る。

※ 正式資格の令和7年度受験者数15名以上を目標とする。受験者数（R2：未実施、R3：9名、R4：15名）

（3）グローバル社会に対応できる人材の育成

ア キャンプライアカレッジとの交流を通して、国際社会に生きる市民としての意識の涵養に努める。

※ 国際交流事業に参加した生徒に対するアンケート調査を実施し、満足度75%以上を目標とする。（R4[新規項目]：未実施）

2 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進

（1）人権を尊重する教育の推進

ア 命の大切さを理解させるとともにお互いを認め合う心を育て、人権意識を高める。また、これらの指導を通して生徒理解への環境づくりに努める。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率（全学年）を令和7年度には93%以上にする。（R4[新規項目] 全学年：92.1%、1年：93.4%、2年：91.7%、3年：91.0%）

（2）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援

ア 生徒一人ひとりの希望進路の実現を図る。

※ 「自立支援コースについてのアンケート」の項目4「あなた（お子様）にとって本校の自己実現（進路、学習等）に向けての支援は十分できていると思いますか」の「①充分であると思う」の回答を令和7年度も65%以上にする。（R4[新規項目] 66.7%）

3 豊かでたくましい人間性の育み

(1) 他者を思いやる豊かな人間性を備え、自律した生徒を育てるとともに、社会への適応力を育成する。

ア 集団活動において、ルールを守る態度を育てるとともに、自他尊重の意識を高め、倫理性・自律性を深める。

※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「18_学校生活について、先生方の指導は納得できる」の肯定的回答率(全学年)を令和7年度には84%以上に
する。

(R2 全学年:77.8%、1年:79.9%、2年:83.3%、3年:70.1%) (R3 全学年:80.0%、1年:79.9%、2年:75.8%、3年:84.5%)

(R4 全学年:76.3%、1年:79.5%、2年:75.8%、3年:73.4%)

イ 誰に対してもさわやかに挨拶ができる生徒を育て、生徒・保護者や教職員が笑顔で挨拶のできる学校をめざすとともに、コミュニケーション能力の向上を図り、生徒自らが明るく気持ちのいい学校生活を送ることができる学校づくりをめざす。

※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「4_学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」の肯定的回答率(全学年)を令和7年度には89%以上に
する。

(R2 全学年:84.7%、1年:77.3%、2年:86.3%、3年:90.5%) (R3 全学年:85.9%、1年:84.6%、2年:83.9%、3年:89.4%)

(R4 全学年:86.5%、1年:87.6%、2年:85.4%、3年:86.3%)

ウ 基本的な生活習慣の確立と時間厳守の意識の向上を図り、遅刻数の減少をめざす。

※ 令和7年度には、学校全体で年間の遅刻数を500件以内に作る。(R2:610件、R3:565件、R4:748件)

エ ボランティア活動やSDGsに関する取組みにより、社会貢献ならびに学校の活性化につながる活動を行う。

※ エコキャップ運動・アイシティーecoプロジェクトの校内周知に努めるとともに、ボランティア活動に積極的に参加できる環境づくりに努める。

(R5[新規項目]「(生徒用) 学校教育自己診断」における「25_リサイクル促進活動やボランティア活動に積極的に参加している」の肯定的回答率(全学年)
を令和7年度には80%以上に作る。

オ 生徒が他者との協力関係や良好な人間関係を築き、社会に貢献しようとする態度を養い、総合的な「人間力」の育成を図る。

※ SAKURA フェスティバル来場者のアンケートにおける満足度を毎年95%以上とする。(R2:未実施、R3:95.5%、R4:100%)

(2) 自主・自律の精神を尊重し、友好的な人間関係を構築することができる環境づくりをすすめる。

ア 自主・自律的態度を育成するとともに、自他を尊重する心を育む。

※ 「桜高祭の取組みに対しての生徒アンケート」を実施し、令和7年度の満足度90%以上を目標とする。(R2:88.3%、R3:89.3%、R4:82.4%)

イ 部活動において、生徒が主体的に活動に取組めるような環境づくりを図るとともに、部活動間の意思疎通を促し、学校全体の活性化を図る。

※ 「生徒向け部活動アンケート(2学期末:1・2年生)」を実施し、令和7年度には、生徒の満足度を令和7年度も95%以上に作る。

(R1:99.1%、R2:98.9%、R3:96.1%、R4:97.6%)

4 健やかな心身の育み

(1) 自らの健康や体力に関心を持ち主体的に健康・安全・美化を管理し改善していく資質や能力を育てる。

ア 心の健康について関心を持たせるとともに、命の大切さを学ばせる。

※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある。」の肯定的回答率(全学年)を令和7年
度も90%以上に作る。(R4[新規項目] 全学年:92.1%、1年:93.4%、2年:91.7%、3年:91.0%)

イ 日常の教育相談活動の充実を図り、生徒理解を深め、課題への有効な支援を行う。

※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「20_学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができている」の肯定的回答率(全学年)を令和7
年度には88%以上に作る。

(R2 全学年:74.4%、1年:66.2%、2年:80.0%、3年:77.2%) (R3 全学年:78.8%、1年:76.2%、2年:75.6%、3年:84.8%)

(R4 全学年:85.5%、1年:86.5%、2年:84.2%、3年:85.9%)

5 教員の資質向上

(1) 指導法の改善と授業力向上を図る。

ア 研究授業、授業見学月間等の実施により、教員間の意見交換を活発に行うことで、授業力の向上をめざす。

※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「5_授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率(全学年)を令和7年度には85%以上に作る。

(R2 全学年:73.7%、1年:66.2%、2年:79.4%、3年:79.5%) (R3 全学年:76.8%、1年:78.8%、2年:70.3%、3年:81.4%)

(R4 全学年:82.1%、1年:84.2%、2年:83.3%、3年:78.9%)

6 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

(1) 開かれた学校づくりと広報活動の推進

ア 前年度の入試出願状況を検証し、広報活動の一層の充実を図る。

※ 令和7年度の入学志願者を普通科:176名以上、自立支援コース:5名以上、専門科:140名以上に作る。

(R2 普通科:165名、自立支援コース:6名、専門科:124名)

(R3 普通科:147名、自立支援コース:5名、専門科:141名) (R4 普通科:175名、自立支援コース:4名、専門科:138名)

イ 地域に開かれた学校づくりをめざす。

※ 「SAKURA フェスティバル」の参加者数を毎年600名以上の参加者数を目標とする。(R2:未実施、R3:607名、R4:706名)

(2) 働き方改革

ア 教職員の時間外勤務の縮減に向けた取組みを促進し、勤務時間等の管理、健康管理を徹底することにより、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。

※ 年間平均時間外勤務時間を令和7年度には、42時間以内とする。(R4:55.9時間)

7 安全で安心な学びの場づくり

(1) 生徒の生命・身体を守る取組み

ア 自転車通学のマナー向上と交通事故防止を目標に、交通安全に対する意識を高める。

※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「22_交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」の肯定的回答率(全学年)を令
和7年度には82%以上(全学年)にする。(R4 全学年:78.3%、1年:77.6%、2年:79.6%、3年:77.7%)

(2) 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底

ア 清潔で安全な環境づくりに取組むために、委員会活動を通じて、校内美化に努める。

※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「24_校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できている」の肯定的回答率(全学年)を令和7
年度には82%以上(全学年)にする。(R4 全学年:78.9%、1年:77.2%、2年:77.1%、3年:82.4%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>まず、アンケートの回答方法について、生徒用は昨年度より、保護者用は今年度より紙のアンケートからフォーム作成ツールでの回答に切り替えた。どちらも紙での回答もできるようにしたが、保護者からの回答率が大幅に減少した。全学年集計で昨年度比4割程度の回答であった。[保護者回答数 R4:609 (/823:74.0%) →R5:246 (/810:30.4%)]</p> <p>以下、生徒用アンケートの集計結果を中心に分析していく。</p> <p>全学年集計では、「21 授業以外で一定時間、毎日勉強している。」以外の全ての設問で肯定的回答率が前年度より低下した。この結果を真摯に受け止め、次年度への課題として改善していきたい。</p> <p>A 学校の様子について</p> <p>「1 学校に行くのが楽しい」については、[全学年:78.2% (R4:82.6%)、1年:77.0%、2年:83.3%、3年:74.2%]が肯定的回答であった。</p> <p>経年結果では、2年生は昨年度より1.1% (R4:82.2%→R5:83.3%) 上昇し、一方、3年生は昨年度2年次より8.3% (R4:82.5%→R5:74.2%) 低下した。</p> <p>さらに、「2 本校の部活動は活発で、充実している」は、全学年集計で昨年度より7.7% (R4:87.2%→R5:79.5%) と大幅に減少[1年:75.7%、2年:84.1%、3年:78.5%]した。</p> <p>本校の特徴でもある部活動を活性化させるためには、生徒主体の活動を推進していかなければならないが、ここ数年で生徒の部活動に対するニーズが変化してきているように感じる。社会的背景も考慮し、これからの部活動の在り方を再構築していく必要がある。</p> <p>B 授業について</p> <p>「5 授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率が、全学年集計で前年度より9.8% (R4:82.1%→R5:72.3%) と大幅に低下[1年:84.2%、2年:83.3%、3年:78.9%]した。</p> <p>また、「7 先生は生徒の質問に丁寧に答えてくれる」や [全学年:82.8% (R4:85.8%)、1年:87.6%、2年:82.1%、3年:87.5%]</p> <p>「8 先生は、教え方に工夫をしている」についても、 [全学年:81.5% (R4:83.3%)、1年:86.1%、2年:81.7%、3年:82.0%]</p> <p>昨年度より若干低下しており、「授業アンケート」などを分析し、さらなる工夫・改善をしていかなければならない。また、1人1台端末の活用も積極的に取り入れており、ICTを効率よく授業に活かす工夫をさらに推進していかなければならない。今後も研修を積み重ね、積極的に活用できるようにするとともに、互いの成果を共有し研究に努めていきたい。</p> <p>C 進路指導関係について</p> <p>昨年度の分析から一変し、全学年集計の4項目すべての設問において、肯定的回答率が前年度より低下した。</p> <p>「9 将来の進路や生き方について考える機会がある」(R4:86.2%→R5:81.1%)</p> <p>「10 進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」(R4:85.4%→R5:80.2%)</p> <p>「11 進路に関しての先生からのアドバイスは適切である」(R4:84.4%→R5:82.2%)</p> <p>「12 進路に関して先生との面談はよく行っている」(R4:56.6%→R5:56.0%)</p> <p>しかし、「12 進路に関して先生との面談はよく行っている」の2・3年生の経年比較を見ると2年 (R4:45.9%→R5:56.9%)、3年 (R4:51.3%→R5:64.4%) 共に10%以上向上しているの、きめ細やかな進路指導の取り組みが窺える。</p> <p>D 行事・団活動について</p> <p>全学年集計の4項目すべての設問において、肯定的回答率が前年度より低下した。</p> <p>「13 学校行事は、充実している」(R4:87.2%→R5:79.9%)</p> <p>「14 団活動は、有意義で本校の特色になっている」(R4:88.3%→R5:82.4%)</p> <p>「15 桜高祭 体育の部は楽しく充実している」(R4:90.1%→R5:83.7%)</p> <p>「16 桜高祭 文化の部は楽しく充実している」(R4:86.8%→R5:80.9%)</p> <p>しかし、桜高祭直後の独自アンケート「桜高祭の取り組みに対しての生徒アンケート」においては、満足度が一昨年度並みに回復[R</p>	<p>【第1回】令和5年5月26日(金)16:00～17:00</p> <ol style="list-style-type: none"> 開会のことば(会長) 学校長挨拶 参加者自己紹介 協議「令和5年度 学校経営計画」について 学校いじめ防止基本方針の改訂について <p>・協議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 確かな学力の育成と進路実現 ICTの積極的な活用に期待したい。 進路実現に向けて、適切な進路情報の提供を期待する。 国際交流事業の来年度の実施に向けて尽力してもらいたい。 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 多様性やダイバーシティについての学習も取り入れてみてはどうだろうか。 豊かでたくましい人間性のはぐくみ 挨拶の指導を継続して欲しい。 遅刻の減少に向けて、具体的な対応策を検討してもらいたい。 健やかな心身の育み 教育相談活動の充実を期待する。 教員の資質向上 研究授業・研究討議等を継続し、資質向上に取り組んでもらいたい。 学校の組織力向上と開かれた学校づくり 昨年度より中学校訪問を府下全域から近隣校を中心に複数回訪問する方法に変更した。その成果があり、志願者数が増えた。PTAの委員も近隣の方が以前より増えている。 淀川クリーン作戦には、野球部の部員が多く参加してくれた。 安全で安心な学びの場づくり 自転車乗車時のヘルメット着用については、学校でも積極的に指導すべきである。 <p>【第2回】令和5年10月6日(金)16:00～17:15</p> <ol style="list-style-type: none"> 開会のことば(会長) 学校長挨拶 協議「令和5年度 学校経営計画(中間評価)」について その他連絡「ゆめ基金」について <p>・協議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 確かな学力の育成と進路実現 1人1台端末の活用状況について、主に生徒たちは情報の検索に使用しているようだが、さらにプレゼンにも活用できればいいと思う。 進路実現に向けて、夏季休業中に3年生に対して小論文対策などを行っているが、2年生から実施してはどうだろうか。 国際交流事業の来年度の実施に向けて尽力してもらいたい。 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 人権学習のさらなる充実を期待する。 豊かでたくましい人間性のはぐくみ 挨拶の指導を継続して欲しい。 遅刻の減少に向けて、保護者にも周知していかなければならない。 健やかな心身の育み 教育相談活動の充実を期待する。 運動部のごみ拾いなどの清掃活動の継続を期待する。 教員の資質向上 研究授業・研究討議等を継続し、資質向上に取り組んでもらいたい。 学校の組織力向上と開かれた学校づくり 第1回オープンスクールの開催時期を早めてはどうか。夏休み前に私学の志望校は決まっているようである。 安全で安心な学びの場づくり 自転車通学所に対して、ヘルメットの着用を啓発してもらいたい。

<p>3:89.3%→R4:82.4%→R5:88.9%]している。今年度の数値が決して低いわけではないが、このことを真摯に受け止め、学校全体の行事について、検討しさらなる発展に向けて取組んでいかなければならない。</p> <p>E 生活指導・保健関係について 全学年集計の4項目すべての設問において、肯定的回答率が前年度より低下した。 「17 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 (R4:87.5%→R5:82.2%) 「18 学校生活について、先生方の指導は納得できる」(R4:76.3%→R5:71.6%) 「19 いのちの大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(R4:92.1%→R5:86.4%)「20 学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができています」 (R4:85.5%→R5:78.1%) 「命の講話」や「赤ちゃん先生プロジェクト」、さらに「人権講話」など、その内容は充実している。また、今年度より「教育相談委員会」を立ち上げ、教員間での生徒情報の共有は進んだと考えられるが、今後それらをどのように実際の生徒への指導につなげていくかが課題となってくる。多様なニーズに対応するためにも研修等を深め共有し、教育実践に活かしていかなければならない。</p> <p>F その他 「21 授業以外で一定時間、毎日勉強している」の全学年集計では、肯定的回答率は、昨年度より4.5%向上(R4:33.8%→R5:38.3%)した。 [1年:30.5%、2年:34.3%、3年:49.8%] また、2・3年生の経年比較を見ると2年(R4:25.9%→R5:34.3%)、3年(R4:31.3%→R5:49.8%)と大幅に向上した。学習支援クラウドサービスの活用が浸透してきたと考えられる。3年生は、受験対策として、1・2年生も使用頻度が上がり、家庭学習の定着につながり始めたようである。また、教員研修を重ね、積極的に活用してきたこともその要因の一つであろう。 「22 交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」の全学年集計で、肯定的回答率は昨年度と同等(R4:78.3%→R5:78.2%)であった。 [1年:76.1%、2年:82.0%、3年:76.4%] 交通事故も大事には至らないが起きているので、命の大切さと関連させ、生徒の意識向上を図る。 「24 校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できている」の全学年集計で、肯定的回答率は昨年度より低下(R4:78.9%→R5:70.5%)した。 [1年:77.2%、2年:77.1%、3年:82.4%] 清掃点検の数値は良好だったが、場所によっては、大変汚れている箇所も目に付く。日頃の清掃活動から見直していく必要がある。 「25 リサイクル促進活動やボランティア活動に積極的に参加している」は、今年度新たに設けた設問であるが、その肯定的回答率が予想よりも低い結果となった。 [全学年:50.7%、1年:43.8%、2年:55.2%、3年:52.8%] 来年度以降の目標達成のためにも、日ごろの指導のさらなる積み重ねが必要だと考える。</p>	<p>【第3回】令和6年1月19日(金)16:00～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会のことば(会長) 2. 学校長挨拶 3. 協議 「令和5年度 学校経営計画(最終評価案)」、 「令和6年度 学校経営計画(案)」および 「令和5年度 学校アンケート集計結果」等について 4. その他 「委員の任期満了」について <p>・協議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力の育成と進路実現 ・学習支援クラウドサービス導入の成果が出ており、生徒の家庭学習の割合が高まっている。継続して取り組み、さらに成果を上げてもらいたい。 ・英検の受験者が大幅に伸びている。来年度は受験料が上がるようだが、この取り組みを継続してもらいたい。 ・生徒の進路実現に向けて、多様化する進路選択に対応してってもらいたい。 ・図書室への来館者を増やすために、本の読み方や新聞の読み方などの講習会を開催してはどうか。 2. 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 ・講演会や講話の後、生徒は感想文を書いているようだが、グループディスカッションを取り入れて学習を深めてほしい。 ・最近増えてきている外国人労働者の人権問題なども扱ってもらいたい。 3. 豊かでたくましい人間性のはぐくみ ・学校の指導に対する不満を家庭でも聞いてあげられれば良いと思う。 ・遅刻の減少に向けて、保護者にも周知していかなければならない。 ・欠席しやすく、不登校や中途退学者が社会的に増加しているようなので、厳しく指導することも必要だと思われる。 4. 健やかな心身の育み ・「赤ちゃん先生プロジェクト」は、生徒にとって命の大切さを実感させるとも良い取り組みである。 5. 教員の資質向上 ・プロジェクターや電子黒板の活用に期待する。 6. 学校の組織力向上と開かれた学校づくり ・保護者の立場から、桜高は本当に素晴らしい学校だと思っている。教職員一丸となって、さらに盛り上げてほしい。 7. 安全で安心な学びの場づくり ・清掃活動を徹底し、校内美化に努めてもらいたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現	<p>(1) 基礎学力の充実を図るとともに応用力と創造性を養い、自ら進んで問題解決・自己実現していく態度を育成する。</p> <p>ア 家庭での学習習慣の定着を図り、早期から進路実現に向けた自主学習習慣を確立させる。</p>	<p>(1) ア 各教科において、予復習に活用できる教材の提供や授業時の小テストを実施することで、家庭学習を定着させる。また、ICTを活用した授業研究を推進し、生徒の興味関心を引き上</p>	<p>(1) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「21_授業以外で一定時間、毎日勉強している」の肯定的回答率(全学</p>	<p>学習支援クラウドサービス導入2年目、現在のところのべ729回の課題配信を実施した。昨年、動画視聴頻度は3年生が占めており主に受験対策として使用していると考えられたが、今年は1年生が上</p>

<p>現 1 確 かな 学 力 の 育 成 と 進 路 実 現</p>	<p>イ 進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、漢字検定や英語検定など外部検定の受検意識の向上を図る。</p> <p>ウ 生徒の健全な教養の育成のために、書籍に親しむ態度の養成に取り組む。</p> <p>(2) 生徒が、自発的に自らの能力・適性・興味・関心を生かした進路選択を行い、進路実現に向けた積極的な取り組みを主体的に行える力を育成する。</p> <p>ア 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、実力養成に努めるとともに、進路意識の向上に努め、生徒の自発的な情報収集能力・活用力の向上を図る。</p> <p>イ 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、各学年に応じた心構えや進路情報を提供する。</p>	<p>げ、自主的に学習に取り組む意識を向上させる。</p> <p>イ 科目選択・資格試験に向けた情報の提供や生徒一人一人の状況に応じた指導を行う。そのために、科目選択や資格試験に向けた説明会・補習を実施し、資格取得への意欲を高める。</p> <p>ウ 芸術、文化に対する関心、意欲を育てるために、新刊図書、話題の図書、推奨図書などの情報を発信する。さらに、生徒のキャリア形成に向けたサポートにつながるコーナーを図書室内に設置する。</p> <p>(2) ア 実力テストや個別の模擬試験、長期休業中の補習等を実施することにより、自らの学力・弱点箇所の把握・克服に役立てる。また、大学や企業から講師を招聘し、学年ごとの生徒向けガイダンスを行い、進路実現に役立つ情報を提供する。また、各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。</p> <p>イ 「進路の手引」を作成し、進路設計に必要な情報を提供する。また、「進路の手引」の配付にあわせて進路説明会を実施する。</p>	<p>年)を40%以上にする。 [全学年:33.8%、1年:25.9%、2年:31.3%、3年:44.1%]</p> <p>イ 外部検定の受検者数を前年度より増加させる。 外部検定の受検者数 漢字検定受検者数 [60名(2回)] 英語検定受検者数 [130名(3回)]</p> <p>ウ 入館者数600名、貸出冊数300冊をめざす。 [入館者数551名、貸出冊数222冊]</p> <p>(2) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率(全学年)を86%以上にする。 [全学年:85.4%、1年:81.0%、2年:83.8%、3年:90.6%]</p> <p>イ 「(生徒用)学校教育自己診断」における「11_進路に関しての先生からのアドバイスは適切である」の肯定的回答率(全学年)を85%以上にする。 [全学年:84.4%、1年:84.9%、2年:79.2%、3年:88.7%]</p>	<p>位を占めている。学年で「学びなおし」対策として使用しているおかげである。今後も、進路実現や英検等も含めた活用を検討し、家庭学習の定着に向けて工夫していく。 [全学年:38.3%、1年:30.5%、2年:34.3%、3年:49.8%](△)</p> <p>漢字検定が減少傾向にあるのは、英検が進路に直結していることで生徒の中で英検受験が優先されていると推測する。また英検受験者数増加に伴い補習も増え、今後考慮しなければならない点もあるが、来年度も進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、各種検定の受検意識の向上を図る。 外部検定の受検者数 漢字検定受検者数 [31名(1回)] 英語検定受検者数 [358名(3回)] (○)</p> <p>図書館専任が居ないため、他の業務と重複した際は閉館もしくは時短開館している状態である。利用者増のため、1年生オリエンテーション(4月)で図書館での説明を組み、また、新刊情報発信も図書通信発行というかたちで4回発行したことが、入館者数と貸出冊数の増加につながったと感じている。今後も活発な図書館利用に向けた情報発信に努めていきたい。 [入館者数1063名、貸出冊数407冊] (○)</p> <p>3年生は6月に進研模試を、8、9月には共通テスト模試を実施した。1、2年生には7月に学力診断テストを実施した。各学年とも、その時点でのそれぞれの実力を確認することができたと思われる。夏期休業中に3年生に各教科の補習、並びに外部講師を招いての小論文講座を実施した。参加した生徒は学力・文章力とも向上した。9月から12月にかけて指定校推薦の生徒には全員に、総合型入試の生徒には希望者に面接練習を行った。 [全学年:80.2%、1年:77.9%、2年:84.5%、3年:78.1%](△)</p> <p>進路ガイダンスを、3年生には5月に、2年生には8月に、1年生には2月に実施した。各大学・専門学校から、3年生は学校別に、2年生は分野別にガイダンスを行った。生徒は各方面の状況がよく理解できたと思われる。 [全学年:82.2%、1年:81.9%、2年:85.4%、3年:79.4%](△)</p>
---	---	--	--	---

1 確 かな 学 力 の 育 成 と 進 路 実 現	<p>ウ 保護者への進路情報を適宜提供するとともに、生徒・保護者が奨学金制度を理解し、もれなく申請できるようにする。</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月に3年生保護者向け、2月に1・2年生保護者向け進路相談会・進路講演会を実施する。 ・生徒・保護者が奨学金制度を理解し、もれなく申請できるよう、学校HPや進路説明会等を通して確実な周知を行う。また、それぞれの学年に応じた周知の機会を設ける。 	<p>ウ</p> <p>「(保護者用)学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率(全学年)を前年度より向上させる。 [全学年:84.0%、1年:79.5%、2年:84.2%、3年:88.1%]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に「進路の手引」を用いて、進路状況など情報を提供し、就職進学とも3年生としてどのようにしていくべきかを説明した。各生徒とも自分の進路について真剣に考えているようであった。 ・日本学生支援機構の予約採用は174名の手続きを完了した。現在は個別での修正を実施済みで、選考結果通知(12月確認)を受けて対象者への連絡を終えている。 <p>情報発信では、学校HPへの掲載を中心に、教室掲示・職員室前掲示も取り入れているが、肯定的回答率では2、3年生では昨年度から横ばいだが、1年生においては11.6%下回った。今年度の結果を検証し今後の計画を検討したい。 [全学年:81.4%、1年:67.9%、2年:84.1%、3年:87.8%](△)</p>
	<p>エ 人間スポーツ科学科の生徒を中心に、将来アスリートを多方面からサポートする人材の育成に向け、ジュニアトレーナー制度の充実を図るとともに、外部団体の公認資格の受験の推進を図る。</p>	<p>エ</p> <p>ジュニアトレーナーは、本校独自の校内資格で、公的機関が認定するトレーナー資格を有する専門家やスポーツ現場で活躍する本校卒業生を講師として招き、トレーニング理論などの講習を行ったうえで資格試験を実施する。</p>	<p>エ</p> <p>資格試験(ジュニアトレーナー)の正解率70%以上を基準とし、前年度と同等以上の合格者数を目標とする。 [合格者:64名]</p>	<p>前後期合わせて合格者数55名となった。また合格者を対象に「トレーニンググループの使い方」「テーピングの巻き方」「マッサージの方法」の3回の講義を実施した。今後、前後期合格者格者を対象に、スチューデントトレーナーの受験者を募り、正式資格取得をめざす。 [合格者:55名](△)</p>
	<p>オ ジュニアトレーナー合格者のさらなるステップアップとして、スチューデントトレーナー等の正式資格の受験推進を図る。</p> <p>(3) グローバル社会に対応できる人材の育成</p> <p>ア キャンプライアカレッジとの交流を通して、国際社会に生きる市民としての意識の涵養に努める。</p>	<p>オ</p> <p>トレーナー・鍼灸師など様々な現場で活躍している本校卒業生を招聘し、ジュニアトレーナー合格者対象の実技講習を前後期それぞれ3回以上実施することで知識を深め、スチューデントトレーナー等の正式資格の受験推進を図る。</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <p>昨年度は、キャンプライアカレッジ(オーストラリア・ビクトリア州)からの訪問が中止となった。令和5年度以降の交流も継続できるように相手校と連携を図りながら、校外の国際交流行事についての周知を確実に行う。また、他分掌と調整を行い、外部の留学に参加できる条件等を整え、生徒が国際交流に積極的に参加できるよう、周知方法や実施内容について校内設備の改善を行う。</p>	<p>オ</p> <p>正式資格(スチューデントトレーナー)の受験者数において前年度と同等以上の数を目標とする。 [受験者数:15名]</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <p>国際交流事業に参加した生徒に対するアンケート調査を実施し、満足度70%以上を目標とする。 [R5新規項目]</p>	<p>前後期ジュニアトレーナー合格者に対しスチューデントトレーナーの受験者を募る。昨年度同様3回の講義に加え、スーパーインストラクター制度を活用し、現役トレーナーによる対策講座を実施し、合格率向上をめざす。また、ジュニアトレーナー資格保有者に対して、更新講習を兼ねた講習会を実施する。 [受験者数:7名](△)</p> <p>キャンプライアカレッジとの情報交換がしばらく途絶えていたが、本校担当から先方の担当へメールでの情報交換をはじめたところである。令和6年度の実施に向け、募集方法、選考方法、付添、予算立てなど整備をすすめているところである。令和6年度は桜宮高校からキャンプライアカレッジへ留学する予定であり、令和6年4月に募集する計画である。</p>

<p>2 「とも」学び「とも」育つ「教育のちから」を推進</p>	<p>(1)人権を尊重する教育の推進 ア 命の大切さを理解させるとともにお互いを認め合う心を育て、人権意識を高める。また、これらの指導を通して生徒理解への環境づくりに努める。</p> <p>(2)一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援 ア 自立支援コースの生徒一人ひとりの希望進路の実現を図る。</p>	<p>(1) ア 外部講師を招いた講演会や人権教育部での講話を実施する。具体的な取組として、人権講演会及び各学年に適した人権学習会をそれぞれ実施する。また、必要に応じて人権講話を行う。</p> <p>(2) ア 個別の支援計画・指導計画を作成し、生徒に応じたキャリア教育の充実に向けて有効活用する。また、生徒の希望進路の実現に向けた企業の新規開拓や、地域ならびに関連機関との連携による実習及び進路指導に努める。</p>	<p>(1) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率(全学年)を前年度同様にする。 [全学年:92.1%、1年:93.4%、2年:91.7%、3年:91.0%]</p> <p>(2) ア 「自立支援コースについてのアンケート」の項目4「あなた(お子様)にとって本校の自己実現(進路、学習等)に向けての支援は十分できていると思いますか」の「①充分であると思う」の回答を前年度同様にする。 [66.7%]</p>	<p>6月19日に全校生徒を対象としてNPO法人の木村響子様を講師にお招きし、「SNS上の誹謗中傷」をテーマに人権教育学習会(講演会)を実施した。現代社会の大きな問題として「SNS上における誹謗中傷」を捉え、身近なこととしてSNSの危険性や有用性について学びを深めることができた。4月24日に、1年生に向けて「同和問題」に関する人権講話を行った。7月4日に、3年生に向けて「近畿統一応募用紙」に関する人権講話を行った。1月には、2年生に向けて「デートDV等」に関する人権講話と3年生に向けて「拉致問題」に関してアニメ「めぐみ」を用いて人権学習を行った。来年度の人権に関する学習の内容について、精査して実施していく。 [全学年:86.4%、1年:86.3%、2年:90.4%、3年:82.4%](△)</p> <p>個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、生徒に応じて実習等の計画を立てた。また、大阪市キャリア教育センターのジョブアドバイザーに進路相談を行い、必要に応じて保護者面談を行った。今後も個々の進路希望に合わせて実習先の企業の新規開拓を行っていくとともに、自立を見据えた進路を模索していく。 [77.8%](○)</p>
<p>3 豊かであくましい人間性の育み</p>	<p>(1)他者を思いやる豊かな人間性を備え、自律した生徒を育てるとともに、社会への適応力を育成する。 ア 集団活動において、ルールを守る態度を育てるとともに、自己尊重の意識を高め、倫理性・自律性を深める。</p> <p>イ 誰に対してもさわやかに挨拶ができる生徒を育て、生徒・保護者や教職員が笑顔で挨拶のできる学校をめざすと同時に、コミュニケーション能力の向上を図り、生徒自らが明るく気持ちのいい学校生活を送ることができる</p>	<p>(1) ア 日常の声掛けや事前指導など、生活指導は全教職員一丸となって行う。また、教員向けのいじめ防止プリントの配付や、SNS携帯安全教室を実施するなど、いじめや暴力など問題行動の予防教育に力を入れる。</p> <p>イ 登校時の挨拶指導を継続し、あらゆる教育活動において、挨拶をはじめとするコミュニケーション能力の向上を図る雰囲気醸成する。</p>	<p>(1) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「18_学校生活について、先生方の指導は納得できる」の肯定的回答率(全学年)を80%以上にする。 [全学年:76.3%、1年:79.5%、2年:75.8%、3年:73.4%]</p> <p>イ 「(生徒用)学校教育自己診断」における「4_学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」の肯定的回答率(全学年)を87%以上にする。 [全学年:86.5%、1年:87.6%、2年:85.4%、</p>	<p>「いじめアンケート」や「スマホ・携帯電話安全教室」を開催するなど、いじめを含む問題行動の未然防止に努めている。今後も、いじめや暴力など問題行動の予防教育に力を入れる。 [全学年:71.6%、1年:67.3%、2年:78.7%、3年:68.7%](△)</p> <p>「全教職員で生活指導に取り組む」という年度当初からの共通理解のもと、生徒登校時に教員が輪番で正門付近・通学路において挨拶・声かけ・マナー指導を行い、生徒の様子・変化を観察し状況把握に努めている。 [全学年:80.5%、1年:81.0%、2年:84.1%、3年:76.4%](△)</p>

<p>3 豊 か で た く ま し い 人 間 性 の 育 み</p>	<p>学校づくりをめざす。</p> <p>ウ 基本的な生活習慣の確立と時間厳守の意識の向上を図り、遅刻数の減少をめざす。</p> <p>エ ボランティア活動やSDGsに関する取り組みにより、社会貢献ならびに学校の活性化につながる活動を行う。</p> <p>オ 生徒が他者との協力関係や良好な人間関係を築き、社会に貢献しようとする態度を養い、総合的な「人間力」の育成を図る。</p> <p>(2) 自主・自律の精神を尊重し、友好的な人間関係を構築することができる環境づくりをすすめる。</p> <p>ア 自主・自律的態度を育成するとともに、自他を尊重する心を育む。</p> <p>イ 部活動において、生徒が主体的に活動に取り組めるような環境づくりを図るとともに、部活動間の意思疎通を促し、学校全体の活性化を図る。</p>	<p>ウ 生活指導部と各学年が連携し、遅刻指導を徹底して行うとともに、個別指導等を粘り強く行う。</p> <p>エ エコキャップ運動・アイシティーecoプロジェクトの校内周知に努めるとともに、ボランティア活動に積極的に参加できる環境づくりに努める。</p> <p>オ 生徒を主体的に SAKURA フェスティバルの企画・運営に参画させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 「桜マインド」内で取り組む団活動の内容を充実させ、学年の枠を越えて全体で取り組ませるとともに、生徒一人ひとりが積極的に参加できるようサポートする。</p> <p>イ トップアスリートや有識者など多様な外部人材を招聘し活動をすすめるとともに、教員相互で部活動や生徒の状況を共有する。また、部活動生徒代表者研修を行い、部活動間の交流を図り、切磋琢磨できる環境づくりに努める。</p>	<p>3年：86.3%]</p> <p>ウ 年間の遅刻数を540件以内にする。 [748件]</p> <p>エ [R5新規項目：「(生徒用)学校教育自己診断」における「25 リサイクル促進活動やボランティア活動に積極的に参加している」の肯定的回答率(全学年)を75%以上にする。</p> <p>オ SAKURA フェスティバル来場者のアンケートにおける満足度を前年度と同程度にする。[100%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 「桜高祭の取組みに対しての生徒アンケート」を実施し、満足度85%以上を目標とする。 [82.4%]</p> <p>イ 「生徒向け部活動アンケート(2学期末：1・2年生)」を実施し、生徒の満足度を前年度と同等以上にする。 [97.6%]</p>	<p>各学年遅刻数が増加傾向にある。遅刻理由に関わらず、遅刻者とは必ずコミュニケーションを取り、学年担任団とも情報を共有し、遅刻が常習化しないよう、個別指導を行う。 年間の遅刻数 [758件] (△)</p> <p>目標とする数値には届かなかったが、3学期も継続して取り組む。一人でも多くの生徒が少しでも参加するように、校内周知を強化するとともに、活動の意義も生徒会新聞などを通じて周知していく。 [全学年：50.7%、1年：43.8%、2年：55.2%、3年：52.8%] (△)</p> <p>10月にボランティアスタッフを募集し、19名の応募があった。昨年度より、ボランティアスタッフの活躍の場を増やし、複数のイベントを掛け持ちしてもらった生徒もいる。また、「ゆるキャラ」を3体招聘し、3名の生徒が担当してくれたおかげで、交代しながら実施することができた。 [100%] (○)</p> <p>学年の枠を超えた活動の中で、様々な課題に取り組む、生徒は力を合わせて協力し支えあう力を育むことができた。夏休みの活動を許可するなど、前年度とは違う取り組みを行い、満足度については昨年度より増加した。次年度はより改善できるように努めたい。 [88.9%] (○)</p> <p>プレイヤーズファーストの理念のもと生徒主体に活動出来る環境づくりに努めた。また、部活動に取り組んでいる生徒は学校生活の様々な場面で活躍している。今後は部活動代表者研修を行い、生徒がより積極的に部活動に参加し、質を高め、学校の雰囲気をもっとよくできるように指導する。 [97.8%] (○)</p>
<p>4 健 や か な 心 身 の 育 み</p>	<p>(1) 自らの健康や体力に関心を持ち主体的に健康・安全・美化を管理し改善していく資質や能力を育てる。</p> <p>ア 心の健康について関心を持たせるとともに、命の大切さを学ばせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒対象に保健講話を実施する。 ・1年生対象の「赤ちゃん先生プロジェクト」 	<p>(1)</p> <p>ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「19_いのちの</p>	<p>・全校生徒対象の命の講話「少年犯罪被害当事者の方の命の大切さを考える」が生徒たちの胸を打ち、予想以上の成果が</p>

<p>4 健 や か な 心 身 の 育 み</p>	<p>ト」を全5回とし、さらにその内容を充実させる。</p> <p>イ 日常の教育相談活動の充実を図り、生徒理解を深め、課題への有効な支援を行う。</p>	<p>大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率（全学年）を前年度同様にする。 [全学年：92.1%、1年：93.4%、2年：91.7%、3年：91.0%]</p> <p>イ 情報の収集と教職員間の共通理解を図り、得た情報を検討し対策を講じる教育相談機関の再構築を行う。</p>	<p>得られた。 ・赤ちゃん先生プロジェクト 8月29日（火）1回目：「命の奇跡」 10組の赤ちゃん先生とママ講師が来校し、各グループ内でママ講師から妊娠出産の話聞いた。妊娠出産の経過などの「知識」としての話だけでなく、その時の母親のリアルな「気持ち」や「感情」が伝わり、命の大切さや親や周りの人の思いに気づけたようである。また、自分自身の命や存在についても考える機会となった。 10月20日（金）2回目：パートナー選び&家族の絆 9組の赤ちゃん先生とリモートで出産2週目の赤ちゃん先生が来校し、赤ちゃんママから自身の結婚観、結婚をきめたエピソード、結婚前と結婚後のパートナーの変化、妊娠出産時のパートナーとの関わりなどを聞き、生徒たちは、結婚前と結婚後、出産後でパートナーや家族とのかわり方や想いに変化があるということを知り、自分の家族のことや将来のことについて考える機会となった。 また、2か月ぶりの再開に対して、赤ちゃん先生の成長と改めて「かわいさ」を実感したようである。 12月13日（水）3回目：育児体験 9組の赤ちゃん先生が来校し、赤ちゃんママから自身の育児経験から困ったことや嬉しかったことを話していただき、その後グループごとに校内をお散歩したり、赤ちゃん先生とお遊びしたりした。中には赤ちゃんママのお出かけバッグを持たせてもらい、意外にもたくさんの荷物があることに驚いていた。 1月15日（月）4回目（最終回）：子育て支援、未来につづく命 赤ちゃんママより、普段の生活やまちの中で子育てしていて困ったことや手助けしてもらったことを教えてもらい、子育てしやすい社会を生徒たちに考えてもらった。また、最終回なので、赤ちゃん先生とたくさん触れ合える機会も作っていただいた。生徒たちは、この約半年の赤ちゃん先生の成長の速さに驚くとともに、命の神秘さを実感したようだ。 [全学年：86.4%、1年：86.3%、2年：90.4%、3年：82.4%]（△）</p> <p>イ 「(生徒用)学校教育自己診断」における「20_学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができてい」の肯定的回答率（全学年）を86%以上にする。 [全学年：85.5%、1年：86.5%、2年：84.2%、3年：85.9%]</p>	<p>養護教諭を中心に毎日状況把握に努めている。また、学年との生徒情報の共有は、随時行っており、年5回の健康教育部会でも確認している。教育相談委員会も立ち上げ、さらに綿密に生徒の理解に役立てている。 カウンセラーによるカウンセリングも月平均4回実施している。学校全体として相談しやすい雰囲気を作れていると思うが、結局は教職員一人ひとりが生徒の悩みに真摯に向き合っている結果である。 [全学年：78.1%、1年：77.0%、2年：82.4%、3年：74.7%]（△）</p>
<p>5 教 員</p>	<p>(1) 指導法の改善と授業力向上を図る。</p>	<p>(1)</p>	<p>(1)</p>	

府立桜宮高等学校

の 資 質 向 上	ア 研究授業、授業見学月間等の実施により、教員間の意見交換を活発に行うことで、授業力の向上をめざす。	ア 授業研究を伴う校内研修の充実と公開授業を実施する。また、互いの授業を見学、意見交換できるように、今後も授業力向上の取り組みを継続していく。	ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「5_授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率(全学年)を83%以上にする。 [全学年:82.1%、1年:84.2%、2年:83.3%、3年:78.9%]	教育実習(16名)を含む研究授業を実施、例年に比べ、多くの授業を見学する機会がもてた。ICTを活用した授業が増えており、プロジェクター・電子黒板が今年度中に各HR教室に配備されることから、来年度は生徒が「わかりやすい」と感じる授業展開が増えると考えている。今後も授業力向上の取り組みを継続していく。 [全学年:72.3%、1年:66.8%、2年:77.4%、3年:72.5%](△)
6 学 校 の 組 織 力 向 上 と 開 か れ た 学 校 づ く り	(1)開かれた学校づくりと広報活動の推進 ア 前年度の入試出願状況を検証し、広報活動の一層の充実を図る。 イ 地域に開かれた学校づくりをめざす。 (2)働き方改革 ア 教職員の時間外勤務の縮減に向けた取組みを促進し、勤務時間等の管理、健康管理を徹底することにより、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。	(1) ア 中学校訪問と年5回の学校説明会を、全教職員で分担して実施する。また、SNS等を可能な限り活用し、本校の魅力を発信する。 イ 地域住民や小中学生及び高齢者を対象とした「SAKURA フェスティバル」を継続実施し、内容についても、さらなる充実をめざす。 (2) ア 時間外勤務時間月80時間を超える教職員に対して、自覚症状と勤務の状況を確認させる。また、必要に応じて、産業医との面談を促す。	(1) ア 前年度よりも入学志願者を増やす。 [普通科:175名、自立支援コース:4名、専門科:138名] イ 前年度と同等以上の参加者数を目標とする。 [参加者数 706名] (2) ア 年間平均時間外勤務時間を45時間以内にする。 [55.9時間]	中学校訪問(88校)、校外学校説明会(14会場)、オープンスクール(5回)を実施し、広報活動に努めた。 [R4普通科:128名、自立支援コース:7名、専門科:129名](△) 昨年度の内容をベースにしながら、新たなイベントとして「阪急百貨店デパ地下移動販売」や「キッチンカー」を導入し、好評を得た。 [参加者数 610名](△) 昨年度と今年度の月ごとの比較では、若干減少傾向にある。産業医との面談も順調に進んでいる。 [52.8時間](△)
7 安 全 で 安 心 な 学 び の 場 づ く り	(1)生徒の生命・身体を守る取組み ア 自転車通学のマナー向上と交通事故防止を目標に、交通安全に対する意識を高める。 (2)保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底 ア 清潔で安全な環境づくりに取り組むために、委員会活動を通じて、校内美化に努める。	(1) ア 交通安全教育や毎日の通学路指導等を通して規範意識を啓発し、交通事故撲滅をめざす。また、事故対応の方法と大切さを浸透させる。 (2) ア 清掃用具の管理に努め、ゴミの分別を啓発する。また、清掃強化月間を年2回実施し、日常の美化活動を促進する。	(1) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「22_交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」の肯定的回答率(全学年)を80%以上にする。 [全学年:78.3%、1年:77.6%、2年:79.6%、3年:77.7%] (2) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「24_校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できて	交通マナーに対する苦情が後を絶たない。また、交通事故も大事には至らないが起きている。命の大切さと関連させ、生徒の意識向上を図る。 [全学年:78.2%、1年:76.1%、2年:82.0%、3年:76.4%](△) 清掃強化月間を6月と11月に実施した。その際に清掃用具点検も行った。ゴミ分別は、かなり定着がすすんでいる。一方、清掃点検の数値は良好だったが、場所によっては、大変汚れている個所も目に

府立桜宮高等学校

			いる」の肯定的回答率（全学年）を80%以上にする。 [全学年：78.9%、1年：77.2%、2年：77.1%、3年：82.4%]	付く。日頃の清掃活動から見直していく必要がある。 [全学年：70.5%、1年：69.0%、2年：76.6%、3年：65.7%]（△）
--	--	--	---	---